

2025年度

大学院薬学研究科

薬科学専攻 博士前期課程・博士後期課程
医療栄養学専攻 博士前期課程
薬学専攻 博士課程

学生募集要項

(学内推薦入学試験 第一次・第二次)

城西大学

〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台1-1
電話 049-271-7711 (入試課)

入学試験における感染症等への対応について

本学の入学試験では試験当日、学校保健安全法で出席停止が定められている感染症に罹患し、治癒していない方は、他の受験生や監督者等への感染のおそれがありますので、受験をご遠慮いただいております。受験をご遠慮いただいた場合でも、入学検定料の返還は行いませんのでご了承ください。

入学試験当日は、安全な受験環境を保持するため監督者がマスクを着用して対応することがあります。試験場にて具合が悪くなった受験生は、試験監督者や受験生係に申し出て、指示に従ってください。

受験生の皆様におかれましては、せっけんを使った手洗い、うがいの励行など感染症に十分注意して受験に臨んでください。

城西大学大学院薬学研究科の3ポリシー

ディプロマポリシー(学位授与の方針)

城西大学大学院薬学研究科では、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、個々人が主観的QOL(quality of life:生活と人生の質)を高く維持し健康のよりよい状態を目指すことを支援するために必要とされる高度な能力および豊かな人間性と社会性を兼ね備え、国際化への対応が求められる社会の維持・発展を積極的にリードする人材の育成を目指します。薬学研究科で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で評価し、各専攻の学位授与方針に従って修了を認定し、修士もしくは博士の学位を授与します。

1. 学問における学びを通じて、思考力・判断力を高めるとともに、自らの人間形成の基礎を培い、倫理観・責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズを解析し、人類文化の発展に貢献する能力を有している。
2. 薬学研究科での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”において、リーダーシップを発揮する能力を有している。
3. 各専攻に関する学びを通じて、個々人が主観的な生活と人生の質(主観的QOL)を高く維持し、健康のよりよい状態を目指すことを支援するために、必要とされる高度な専門知識と技能に加え、地域や国際社会における諸問題の解決に関する研究遂行能力と問題解決能力をさらに高め、それを将来にわたり発展させようとする態度を有している。

カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)

城西大学大学院薬学研究科では、建学の精神「学問による人間形成」に基づき定めたディプロマポリシーに示す学修目標に、全ての学生が到達するように、以下の方針でカリキュラムを構築します。

1. 人類文化の発展に貢献する能力を養うために、自身の専門を含む広い範囲の「特論科目」を設定する。その評価においては、形成的評価を適宜行い、各科目の特性に合わせた様々な評価方法を適用して、可否の判定を伴う総括的評価を実施する。
2. “協創”による社会問題の解決においてリーダーシップを発揮するための科目として、能動的活動を主体とする「特論演習科目」を設定する。その評価においては、学内外の多様な評価者が関わる形で形成的評価を行い、また、各科目の特性に合わせた様々な評価方法を適用して、可否の判定を伴う総括的評価を実施する。
3. 各専攻に関する学び及び探究を深めるため、研究論文作成を行う。研究計画の策定及び研究実施の過程において形成的評価を適宜行い、可否の判定を伴う総括的評価は、複数の研究科担当教員が関わる形で、各専攻が示す基準に基づき、学位論文審査及び最終試験(口頭試問)において行う。

アドミッションポリシー(入学者受入の方針)

城西大学大学院薬学研究科では、広い知識と深い専門性の学びを提供し、個々人が主観的QOLを高く維持し健康のよりよい状態を目指すことを支援するために必要とされる高度な専門性と豊かな学識を有し、地域や国際社会の発展を積極的にリードする人物の養成を行います。そのため以下の資質・能力もしくは志向を有する人に入学を期待します。

1. 薬学に関する多様な事象に理解を示し、人々の暮らしにおける課題・ニーズは何かという視点を持って、社会のルールに従って、責任感を持って行動し、自己の理想に向かって活動する意思を有する人
2. 薬学研究を通して他者との対話を通して自らを高め、他者と協力して社会の課題に取り組むうえで、リーダーシップを発揮する意思を有する人
3. 薬学に関する学問分野において、必要となる基礎的な知識と技能を有しており、大学または社会で学んだ教養をさらに深化・発展させて、地域や国際社会に存在する様々な課題に取り組もうと考えている人

薬学研究科薬科学専攻（博士前期課程）

ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

薬学研究科薬科学専攻（博士前期課程）では、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、薬科学分野において専門的能力および豊かな人間性と社会性を兼ね備え、地域や国際社会の発展を積極的にリードする人物を育成します。薬科学専攻で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で評価し、薬科学専攻の学位授与方針に従って修了を認定し、修士（薬科学）の学位を授与します。

1. 学問における学びを通じて、思考力・判断力を高めるとともに、自らの人間形成の基礎を培い、倫理観・責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズを解析し、人類文化の発展に貢献する能力を有している。
2. 薬科学専攻での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”において、リーダーシップを発揮する能力を有している。
3. 薬科学に関する学びを通じて、個々人が主観的な生活と人生の質（主観的QOL）を高く維持し、健康のよりよい状態を目指すことを支援するために、必要とされる高度な専門知識と技能に加え、地域や国際社会における諸問題の解決に関する研究遂行能力と問題解決能力をさらに高め、それを将来にわたり発展させようとする態度を有している。

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

薬学研究科薬科学専攻（博士前期課程）では、建学の精神「学問による人間形成」に基づき定めたディプロマポリシーに示す学修目標に、全ての学生が到達するように、以下の方針でカリキュラムを構築します。

1. 人類文化の発展に貢献する能力を養うために、自身の専門を含む広い範囲の「特論科目」を設定する。その評価においては、形成的評価を適宜行い、各科目の特性に合わせた様々な評価方法を適用して、可否の判定を伴う総括的評価を実施する。
2. “協創”による社会問題の解決においてリーダーシップを発揮するための科目として、能動的活動を主体とする「特論演習科目」を設定する。その評価においては、学内外の多様な評価者が関わる形で形成的評価を行い、また、各科目の特性に合わせた様々な評価方法を適用して、可否の判定を伴う総括的評価を実施する。
3. 薬科学に関する学び及び探究を深めるため、研究論文作成を行う。研究計画の策定及び研究実施の過程において形成的評価を適宜行い、可否の判定を伴う総括的評価は、複数の研究科担当教員が関わる形で、薬科学専攻が示す基準に基づき、学位論文審査及び最終試験（口頭試問）において行う。

アドミッション・ポリシー(入学者受入の方針)

薬学研究科薬科学専攻（博士前期課程）では、薬科学の広い知識と深い専門性の学びを提供し、個々人が主観的QOLを高く維持し健康のよりよい状態を目指すことを支援するために必要とされる高度な専門性と豊かな学識を有し、地域や国際社会の発展を積極的にリードする人物の養成を行います。そのため以下の資質・能力もしくは志向を有する人に入学を期待します。

1. 薬科学に関する多様な事象に理解を示し、人々の暮らしにおける課題・ニーズは何かという視点を持って、社会のルールに従って、責任感を持って行動し、自己の理想に向かって活動する意思を有する人
2. 薬科学に関する研究を通して他者との対話を通して自らを高め、他者と協力して社会の課題に取り組むうえで、リーダーシップを発揮する意思を有する人
3. 薬科学に関する学問分野において、必要となる基礎的な知識と技能を有しており、大学または社会で学んだ教養をさらに深化・発展させて、地域や国際社会に存在する様々な課題に取り組もうと考えている人

薬学研究科医療栄養学専攻(博士前期課程)

ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

薬学研究科医療栄養学専攻(博士前期課程)では、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、栄養学・栄養管理分野において専門的能力および豊かな人間性と社会性を兼ね備え、地域や国際社会の発展を積極的にリードする人物を育成します。医療栄養学専攻で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で評価し、医療栄養学専攻の学位授与方針に従って修了を認定し、修士(医療栄養学)の学位を授与します。

1. 学問における学びを通じて、思考力・判断力を高めるとともに、自らの人間形成の基礎を培い、倫理観・責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズを解析し、人類文化の発展に貢献する能力を有している。
2. 医療栄養学専攻での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”において、リーダーシップを発揮する能力を有している。
3. 栄養学・栄養管理に関する学びを通じて、個々人が主観的な生活と人生の質(主観的QOL)を高く維持し、健康のよりよい状態を目指すことを支援するために、必要とされる高度な専門知識と技能に加え、地域や国際社会における諸問題の解決に関する研究遂行能力と問題解決能力をさらに高め、それを将来にわたり発展させようとする態度を有している。

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

薬学研究科医療栄養学専攻(博士前期課程)では、建学の精神「学問による人間形成」に基づき定めたディプロマポリシーに示す学修目標に、全ての学生が到達するように、以下の方針でカリキュラムを構築します。

1. 人類文化の発展に貢献する能力を養うために、自身の専門を含む広い範囲の「特論科目」を設定する。その評価においては、形成的評価を適宜行い、各科目の特性に合わせた様々な評価方法を適用して、可否の判定を伴う総括的評価を実施する。
2. “協創”による社会問題の解決においてリーダーシップを発揮するための科目として、能動的活動を主体とする「特論演習科目」を設定する。その評価においては、学内外の多様な評価者が関わる形で形成的評価を行い、また、各科目の特性に合わせた様々な評価方法を適用して、可否の判定を伴う総括的評価を実施する。
3. 栄養学・栄養管理に関する学び及び探究を深めるため、研究論文作成を行う。研究計画の策定及び研究実施の過程において形成的評価を適宜行い、可否の判定を伴う総括的評価は、複数の研究科担当教員が関わる形で、医療栄養学専攻が示す基準に基づき、学位論文審査及び最終試験(口頭試問)において行う。

アドミッション・ポリシー(入学者受入の方針)

薬学研究科医療栄養学専攻(博士前期課程)では、医療栄養学の広い知識と深い専門性の学びを提供し、個々人が主観的QOLを高く維持し健康のよりよい状態を目指すことを支援するために必要とされる高度な専門性と豊かな学識を有し、地域や国際社会の発展を積極的にリードする人物の養成を行います。そのため以下の資質・能力もしくは志向を有する人に入学を期待します。

1. 医療における栄養学に関する多様な事象に理解を示し、人々の暮らしにおける課題・ニーズは何かという視点を持って、社会のルールに従って、責任感を持って行動し、自己の理想に向かって活動する意思を有する人
2. 栄養学・栄養管理に関する研究を通して他者との対話を通して自らを高め、他者と協力して社会の課題に取り組むうで、リーダーシップを発揮する意思を有する人
3. 栄養学・栄養管理に関する学問分野において、必要となる基礎的な知識と技能を有しており、大学または社会で学んだ教養をさらに深化・発展させて、地域や国際社会に存在する様々な課題に取り組もうと考えている人

薬学研究科薬科学専攻(博士後期課程)

ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

城西大学大学院薬学研究科薬科学専攻(博士後期課程)では、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、薬学と栄養学の融合分野において専門的能力および豊かな人間性と社会性を兼ね備え、地域や国際社会の発展を積極的にリードする人物を育成します。薬科学専攻(博士後期課程)で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で評価し、薬科学専攻(博士後期課程)の学位授与方針に従って修了を認定し、博士(薬科学)の学位を授与します。

1. 学問における学びを通じて、思考力・判断力を高めるとともに、自らの人間形成の基礎を培い、倫理観・責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズを解析し、人類文化の発展に貢献する能力を有している。
2. 薬科学専攻(博士後期課程)での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”において、リーダーシップを発揮する能力を有している。
3. 薬学と栄養学の融合分野に関する学びを通じて、個々人が主観的な生活と人生の質(主観的QOL)を高く維持し、健康のよりよい状態を目指すことを支援するために、必要とされる高度な専門知識と技能に加え、地域や国際社会における諸問題の解決に関する研究遂行能力と問題解決能力をさらに高め、それを将来にわたり発展させようとする態度を有している。

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

薬学研究科薬科学専攻(博士後期課程)では、建学の精神「学問による人間形成」に基づき定めたディプロマポリシーに示す学修目標に、全ての学生が到達するように、以下の方針でカリキュラムを構築します。

1. 人類文化の発展に貢献する能力を養うために、自身の専門を含む広い範囲の「特論科目」を設定する。その評価においては、形成的評価を適宜行い、各科目の特性に合わせた様々な評価方法を適用して、可否の判定を伴う総括的評価を実施する。
2. “協創”による社会問題の解決においてリーダーシップを発揮するための科目として、能動的活動を主体とする「特論演習科目」を設定する。その評価においては、学内外の多様な評価者が関わる形で形成的評価を行い、また、各科目の特性に合わせた様々な評価方法を適用して、可否の判定を伴う総括的評価を実施する。
3. 薬学と栄養学の融合分野に関する学び及び探究を深めるため、研究論文作成を行う。研究計画の策定及び研究実施の過程において形成的評価を適宜行い、可否の判定を伴う総括的評価は、複数の研究科担当教員が関わる形で、薬科学専攻(博士後期課程)が示す基準に基づき、学位論文審査及び最終試験(口頭試問)において行う。

アドミッション・ポリシー(入学者受入の方針)

薬学研究科薬科学専攻(博士後期課程)では、薬学と栄養学の融合分野の広い知識と深い専門性の学びを提供し、個々人が主観的QOLを高く維持し健康のよりよい状態を目指すことを支援するために必要とされる高度な専門性と豊かな学識を有し、地域や国際社会の発展を積極的にリードする人物の養成を行います。そのため以下の資質・能力もしくは志向を有する人に入学を期待します。

1. 薬学と栄養学の融合分野に関する多様な事象に理解を示し、人々の暮らしにおける課題・ニーズは何かという視点を持って、社会のルールに従って、責任感を持って行動し、自己の理想に向かって活動する意思を有する人
2. 薬学と栄養学の融合分野に関する研究を通して他者との対話を通して自らを高め、他者と協力して社会の課題に取り組むうえで、リーダーシップを発揮する意思を有する人
3. 薬学と栄養学の融合分野に関する学問分野において、必要となる基礎的な知識と技能を有しており、大学または社会で学んだ教養をさらに深化・発展させて、地域や国際社会に存在する様々な課題に取り組もうと考えている人

薬学研究科薬学専攻（博士課程）

ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

城西大学大学院薬学研究科薬学専攻（博士課程・4年制）では、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、個々人が主観的QOL(quality of life:生活と人生の質)を高く維持し健康のよりよい状態を目指すことを支援するために必要とされる、基礎薬学・医療薬学分野における高度な能力および豊かな人間性と社会性を兼ね備え、国際化への対応が求められる社会の維持・発展を積極的にリードする人材の育成を目指します。薬学専攻で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で評価し、各専攻の学位授与方針に従って修了を認定し、博士（薬学）の学位を授与します。

1. 学問における学びを通じて、思考力・判断力を高めるとともに、自らの人間形成の基礎を培い、倫理観・責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズを解析し、人類文化の発展に貢献する能力を有している。
2. 薬学専攻での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”において、リーダーシップを発揮する能力を有している。
3. 基礎薬学・医療薬学に関する学びを通じて、個々人が主観的な生活と人生の質（主観的QOL）を高く維持し、健康のよりよい状態を目指すことを支援するために、必要とされる高度な専門知識と技能に加え、地域や国際社会における諸問題の解決に関する研究遂行能力と問題解決能力をさらに高め、それを将来にわたり発展させようとする態度を有している。

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

薬学研究科薬学専攻（博士課程・4年制）では、建学の精神「学問による人間形成」に基づき定めたディプロマポリシーに示す学修目標に、全ての学生が到達するように、以下の方針でカリキュラムを構築します。

1. 人類文化の発展に貢献する能力を養うために、自身の専門を含む広い範囲の「特論科目」を設定する。その評価においては、形成的評価を適宜行い、各科目の特性に合わせた様々な評価方法を適用して、可否の判定を伴う総括的評価を実施する。
2. “協創”による社会問題の解決においてリーダーシップを発揮するための科目として、能動的活動を主体とする「特論演習科目」を設定する。その評価においては、学内外の多様な評価者が関わる形で形成的評価を行い、また、各科目の特性に合わせた様々な評価方法を適用して、可否の判定を伴う総括的評価を実施する。
3. 基礎薬学・医療薬学に関する学び及び探究を深めるため、研究論文作成を行う。研究計画の策定及び研究実施の過程において形成的評価を適宜行い、可否の判定を伴う総括的評価は、複数の研究科担当教員が関わる形で、各専攻が示す基準に基づき、学位論文審査及び最終試験（口頭試問）において行う。

アドミッション・ポリシー(入学受入の方針)

薬学研究科薬学専攻（博士課程・4年制）では、基礎薬学・医療薬学分野の広い知識と深い専門性の学びを提供し、個々人が主観的QOLを高く維持し健康のよりよい状態を目指すことを支援するために必要とされる高度な専門性と豊かな学識を有し、地域や国際社会の発展を積極的にリードする人物の養成を行います。そのため以下の資質・能力もしくは志向を有する人に入学を期待します。

1. 多様な事象に理解を示し、人々の暮らしにおける課題・ニーズは何かという視点を持って、社会のルールに従って、責任感を持って行動し、自己の理想に向かって活動する意思を有する人
2. 他者との対話を通して自らを高め、他者と協力して社会の課題に取り組むうえで、リーダーシップを発揮する意思を有する人
3. 基礎薬学・医療薬学に関する学問分野において、必要となる基礎的な知識と技能を有しており、大学または社会で学んだ教養をさらに深化・発展させて、地域や国際社会に存在する様々な課題に取り組もうと考えている人

2025 年度 大学院薬学研究科学生募集要項(学内推薦)

1. 募集人員

専攻	博士前期課程		博士後期課程	博士課程
	薬科学専攻	医療栄養学専攻	薬科学専攻	薬学専攻
入学定員	32 名	20 名	3 名	6 名

※一次募集以降定員になり次第募集を終了します。

※各講座には受入人数に制限がありますので、出願前にお問い合わせください。

2. 募集研究分野・領域

(1) 薬科学専攻 博士前期課程

分野	講座	研究内容	指導教員
医薬探索	天然物化学	医薬品のほか、化粧品や食品の機能性原料として用いられる天然素材が秘める機能性を含有成分の観点から解き明かす研究	鈴木 龍一郎
	生物有機化学	生物活性天然物を基盤とした創薬リード化合物の探索及び合成研究	杉田 義昭
生体機能	生体分析学	生体成分分析法および各種酵素活性測定法の開発と応用に関する研究	高尾 浩一
	生物薬品科学	プロリン含有ペプチドの上部消化管に対する影響 ピロリ菌除菌に有用な物質の探索	田中 享
化粧品機能	化粧品動態制御学	未病と健康に寄与する医薬品・化粧品の機能評価と送達システムに関する研究	藤堂 浩明
	皮膚生理学	健康な皮膚の維持に向けた表皮内因子の解析、並びにスキンケア素材関連研究	高木 豊
食品栄養機能	機能性食品科学	機能性成分の生体機能に与える影響と機能性食品の安全性・効能評価に関する研究	古旗 賢二
	栄養生理学	脂質の栄養生理学的役割の解明と生活習慣病や加齢に伴う疾患の予防・治療効果の組織学的解析	片倉 賢紀

(2) 医療栄養学専攻 博士前期課程

分野	講座名	研究内容	指導教員
基礎系 医療栄養	食品機能学	筋骨格系に対する高機能性ペプチドの作用とその分子メカニズムに関する研究	真野 博
	分子栄養学	生活習慣病に予防・改善効果を有する食品成分の作用メカニズムに関する分子栄養学的研究	清水 純
	生体防御学	酸化ストレスに起因する疾病を予防・改善する食品と医薬品に関する研究 生体内の免疫能に影響を与える食品・食品成分の評価	神内 伸也
	食毒性学	治療補助効果のある食事設計構築と、機能性食品開発その医薬品との相互作用における食毒性的評価研究	山王丸 靖子
臨床系 医療栄養	臨床栄養学	生活習慣病に対する各種栄養素の影響 メタボリック症候群の効果的な栄養治療の確立	清水 純
	病態解析学	消化管の病態改善と恒常性維持に向けた機能性成分の効果および作用機序の解析に関する研究	内田 博之
政策系 医療栄養	予防栄養学	地理情報システムおよびベイズ型 Age-Period-Cohort 分析を利用した健康情報の視覚的、統計学的解析	内田 博之
	栄養教育学	個人ならびにその環境を考慮したテーラーメイドの栄養教育方法に関する研究	山王丸 靖子
	薬物療法学	食品と医薬品の相互作用 栄養状態と医薬品の相互作用	須永 克佳

(3) 薬科学専攻 博士後期課程

分野	講 座	研 究 内 容	指 導 教 員 名
高度薬科学	薬粧品動態制御学	未病と健康に寄与する医薬品・化粧品機能評価と送達システムに関する研究	藤堂 浩明
	皮膚生理学	健康な皮膚の維持に向けた表皮内因子の解析、並びにスキンケア素材関連研究	高木 豊
	天然物化学	医薬品のほか、化粧品や食品の機能性原料として用いられる天然素材が秘める機能性を含有成分の観点から解き明かす研究	鈴木 龍一郎
	栄養生理学	脂質の栄養生理学的役割の解明と生活習慣病や加齢に伴う疾患の予防・治療効果の組織学的解析	片倉 賢紀
	生物有機化学	生物活性天然物を基盤とした創薬リード化合物の探索及び合成研究	杉田 義昭
	生体分析学	生体成分分析法および各種酵素活性測定法の開発と応用に関する研究	高尾 浩一
	生物薬品科学	プロリン含有ペプチドの上部消化管に対する影響 ピロリ菌除菌に有用な物質の探索	田中 享
	機能性食品科学	機能性成分の生体機能に与える影響と機能性食品の安全性・効能評価に関する研究	古旗 賢二
	薬剤作用解析学	薬剤作用を修飾する諸因子の解析および医薬情報のデータマイニング	大島 新司
高度医療栄養学	薬品作用学	白血病細胞に対する新規有機ヒ素化合物ダリナパルシンの抗腫瘍活性および適用拡大に関する研究 天然化合物およびその誘導体による既存抗がん剤の殺細胞作用増強機構に関する研究	袁 博
	生体防御学	酸化ストレスに起因する疾病を予防・改善する食品と医薬品に関する研究 生体内の免疫能に影響を与える食品・食品成分の評価	神内 伸也
	食品機能学	筋骨格系に対する高機能性ペプチドの作用とその分子メカニズムに関する研究	真野 博
	薬物療法学	食品と医薬品の相互作用 栄養状態と医薬品の相互作用	須永 克佳

病態解析学	消化管の病態改善と恒常性維持に向けた機能性成分の効果および作用機序の解析に関する研究	内田 博之
分子栄養学	生活習慣病に予防・改善効果を有する食品成分の作用メカニズムに関する分子栄養学的研究	清水 純
食毒性学	食品成分とその有害作用（食毒性）の評価 食毒性を制御する食品構成や薬物療法の検討	山王丸 靖子
栄養教育学	個人ならびにその環境を考慮したテーラーメイドの栄養教育方法に関する研究	山王丸 靖子
予防栄養学	地理情報システムおよびベイズ型 Age-Period-Cohort 分析を利用した健康情報の視覚的、統計学的解析	内田 博之
臨床栄養学	生活習慣病に対する各種栄養素の影響 メタボリック症候群の効果的な栄養治療の確立	清水 純

(4) 薬学専攻 博士課程

領域	講 座	研 究 内 容	指 導 教 員 名
薬探索	医薬品化学	薬物と標的タンパク質の分子間相互作用の解析と構造活性相関に関する研究	高山 淳
	有機薬化学	糖鎖の生命現象解明のためのプローブや、創薬につながる機能性糖鎖誘導体の設計・合成及び生物評価	(募集なし)
	生薬学	天然薬用資源の機能性及び分子メカニズムに関する研究	北村 雅史
	薬品物理化学	物性理解に基づく分子マシン設計とドラッグデリバリーシステム開発	江川 祐哉
生体防御	衛生化学	健康障害因子（遺伝子変異、摂食食品成分の偏り、薬毒物）による疾病誘発の機構解析と防御	(募集なし)
	公衆衛生学	生体リズムが健康と疾病に及ぼす影響の解析およびリズム調節による疾病予防に関する研究	河合 洋
	生化学	天然資源物・生体成分の生体防御機能解析とその臨床応用に関する研究	谷川 尚
	薬品作用学	生活習慣病における脳機能障害メカニズムの解明と予防・改善に関する研究	岡崎 真理
薬剤・製剤学	製剤学	種々疾患の治療目的に合わせた薬物送達システムの開発に関する研究	内田 昌希
	薬剤学	薬物の生体刺激応答活性化と標的指向性付与に基づく製剤開発に関する研究	(募集なし)
	病院薬剤学	患者への安全かつ適正な薬剤投与システムの開発	上田 秀雄
臨床生命科学	臨床薬理学	医薬品開発における薬物の有効性と安全性に関する薬理学的研究	木村 光利
	病原微生物学	細菌感染防御のための表層抗原の応用と新規抗菌物質の検索	(募集なし)

	生体分析化学	新規生体成分の検出・同定と該当する生体成分の分析法開発と生理的機能の解析	古地 壯光
臨床治療学	生理学	生活習慣病の成因および病態の解明とその予防法や治療法の開発	大竹 一男
	薬物治療学	治療薬開発に向けた精神疾患の病因・病態メカニズムの解明	宮本 嘉明
	栄養治療学	薬食同源に基づいた医薬品や栄養成分の物性評価ならびに生物活性評価における基礎的研究	井上 裕
	臨床病理学	経腸・経リンパ的送達を目指した新規核酸製剤の開発研究	渡辺 知恵
	薬局管理学	医療・介護の質向上に寄与するための臨床研究	岡崎 真理

3. 出願資格(博士前期課程・博士後期課程・博士課程)

本学を卒業、または2025年3月卒業見込みの者で本研究科の予備審査を通過した者。

4. 出願期間及び選考日(博士前期課程・博士後期課程・博士課程)

	出願期間	選考日
第一次	2024年8月21日(水)～9月4日(水)	2024年9月7日(土)
第二次	2025年2月25日(火)～3月3日(月)	2025年3月6日(木)

※試験開始後20分以内に、試験室に入室した場合に限り受験を認めます。

5. 出願手続

(1) 入学検定料 35,000円

(2) 出願書類

出願書類	博士前期課程	博士後期課程	博士課程	備考
志願票	○	○	○	本学所定用紙、写真貼付
調査書	○	○	○	本学所定用紙、本学にて作成、厳封
推薦書	○	○	○	希望する本学薬学研究科の指導教員が作成
卒業(見込)証明書	○	—	○	本学にて作成
修士課程修了(見込)証明書	—	○	—	本学にて作成
成績証明書	○	○	○	本学にて作成
入学検定料(¥35,000-) 振替払込受付証明書	○	○	○	本学指定振込用紙にて納入、志願票に貼付

①志願票に志望する専攻名を記入してください。

②出願する際には、志望する指導教員(講座主任)と予め協議して推薦を受けてください。

③外国人留学生は、出願資格に該当する最終出身学校の卒業(修了)証明書、学位記または学位記に準ずる書類、最終出身学校の成績証明書については、必ず原本を持参してください。ただし、学位記または学位記に準ずる書類のみコピー可とする。また、上記の出願書類のほかに提出書類がありますので、城西大学入試情報サイトよりダウンロードしてください。

(<https://admission.josai.ac.jp/examination/application/>)

④入学試験を受ける際、または修学上特別の配慮を必要とする方は、本学の学習内容(実験・実習含む)や支援体制、施設設備などについて事前に協議が必要となるため、入学検定料を納入する前に入試課にご相談ください。

⑤出願書類に不備のあるものは受理できません。

(3) 提出先

〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台1-1 城西大学入試課

※郵送の場合は書留郵便とし、封筒の表に「薬学研究科入学願書」と朱記のうえ、締切日必着で送付してください。(外国人留学生は窓口受付のみ)

受付時間 9:00～11:00 12:30～17:00(土・日曜、祝日を除く)

6. 選考方法

- (1) 書類審査
- (2) 面接試験

博士前期課程	博士後期課程	博士課程
卒業論文研究の説明、質問 ・研究発表(5分) 紙媒体を利用する。プロジェクターの利用不可。教員への資料配布は必要なし。 ・質疑応答(5分)	修士論文研究の説明、質問 ・研究発表(20分) 紙媒体を利用する。プロジェクターの利用不可。教員への資料配布は必要なし。 ・質疑応答(10分)	卒業論文研究の説明、質問 ・研究発表(15分) 紙媒体を利用する。プロジェクターの利用不可。教員への資料配布は必要なし。 ・質疑応答(10分)

7. 合否通知発送日・入学手続締切日

(博士前期課程・博士後期課程・博士課程)

	合否通知発送日	入学手続締切日
第一次	2024年9月12日(木)	2024年10月17日(木)
第二次	2025年3月12日(水)	2025年3月21日(金)

- (1) 合格者には合格通知書及び入学手続に関する書類を合否通知発送日に本人宛に速達郵便で発送します。また、研究科の選にもれた者にも、その旨を本人宛に通知します。
- (2) 合格者は、入学手続締切日までに、保証人を定めて入学手続金の納入と所定の書類の提出が必要です。入学手続締切日までに手続きを履行しないときは入学を許可しません。

8. 学 費

(博士前期課程・博士後期課程・博士課程)

(単位:円)

		初 年 度			2年次以降 (年額)
		入学手続時	10月(秋学期分)	合計(年額)	
学 費	入学金(入学申込金)	免除		0	
	授 業 料	365,000	365,000	730,000	毎年同額を納入
	施設設備費	150,000		150,000	毎年同額を納入
	小 計	515,000	365,000	880,000	
諸 会 費	父母後援会費	免除		0	
	共 済 費	9,000		9,000	毎年同額を納入
	小 計	9,000		9,000	
納 付 額		524,000	365,000	889,000	

※1 入学申込金は、本学卒業生は免除する。

※2 父母後援会費は、本学卒業生と留学生は免除する。

9. 入学辞退について

入学手続きを行った後に入学を辞退する場合は、本学所定の「入学辞退届」及び「入学許可書」を入試課に提出すること。郵送の場合は、「入学辞退届用宛名ラベル」を使用し、簡易書留で送付すること。

10. 学費の返還について

「入学辞退届」及び「入学許可書」を下記の締切日時(必着)までに提出した者に対し、入学金以外の学費を返還する。

締 切 日 時	返 還 日
2025年3月31日(月) 16時	2025年4月9日(水)

11. その他

(1) 提出書類等に虚偽の記載または申告などの事実があった場合は、入学許可を取り消します。

(2) 入学等に関する問い合わせ先

〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台1-1 城西大学 入試課

TEL 049-271-7711 (入試課)